

穂 学

平成30年度

広州日本人学校学校便り

[No. 11]

平成31年2月21日(木)

発行責任者 教頭 渡邊美佐子

広州日本人学校の思い出を胸に

校長 丸本 亙

春節も過ぎ、2月も残すところわずかになり、卒業式・修了式も間近に迫ってきました。この1年間を振り返るといろいろな事がありました。4月の入学式から始まり暑い中での運動会。各学年の体験的な学習や宿泊体験学習。夏祭りや学習発表会などの保護者の方々に参観いただいた活動。いろいろな場面で、ご協力やお力添えを頂き本当に感謝しております。ありがとうございました。

さて、3月7日、小学部33名、中学部21名が卒業します。6年間・3年間の成長を確かめながら進学先への希望をふくらませ、すばらしい卒業式を創りあげてくれることと思います。小中一貫校である広州日本人学校でも9年間本校に通ったという生徒は本当に少ないのですが、毎年何人かはいるのです。この後、日本の高校に進学するという事で住み慣れた広州を離れ、日本で勉学に励む生徒もいます。9年間本校で学んだ生徒は勿論、卒業していく子ども達が、母校である広州日本人学校の良き思い出を胸に、日本での生活に素早く順応してくれることを強く願っています。

小学部6年生は中学生になる自覚と自信を身に付け、中学部3年生は新たな高校生活への夢をふくらませてほしいと思っています。これからの中学校あるいは高等学校での生活は、しっかりと自分の生き方や目標を持たないと安易な方向へと流されてしまいます。今後の3年間は卒業生の皆さんにとってとても大切な時期です。活躍の場はたくさんあります。新しい学習、新しい友だちづくり、そして部活動。どれをとっても挑戦するに値するものばかりです。くじけることなく挑戦し続けてほしいと願っています。そんな中でも、将来の夢を持って生活してほしいと願っています。夢の実現に向けて努力することは、人間的にも大きく成長することに繋がります。どんな夢でも、実現に向けての過程が大切だと思うからです。

私達は日々生活していく中で、多くの出会い、別れを経験しながら生きています。広州日本人学校での多くの出会いを大切に、遠く離れてもいつまでも続いていく友情を信じて頑張してほしいと思います。多くの人と関わりながら、さらに大きく成長してくれることを期待しています。

広州日本人学校を卒業するみなさんにとって、学校はいつまでも母校です。困ったとき、悩んだときに広州日本人学校を思い出してください。たくさんの楽しかった学校生活を思い返してください。きっとどんな困難も乗り越えることができることと思います。母校、広州日本人学校を心の中に強く刻み込んで卒業してくれることを願っています。

中3を送る会 1月25日

中学部では、1月25日に「3年生を送る会」を実施しました。内容は前半に各クラス対抗のドッチボールを行い、体を動かしながら親交を深めました。

後半は在校生によるスライドショーメッセージと歌「さくら（独唱）」、最後に3年生による「3月9日」の歌が送られました。最高学年らしい美しいハーモニーが体育館に響き、目元に涙が光る生徒の姿も見られました。

後輩の温かいエールが心の糧となり、3年生すべての生徒が入試本番で最大限の力が発揮できるよう、心から祈っています。



音楽部コンサート

1月24日の昼休みに、音楽部によるコンサートが行われました。音楽部の部員は、この日のために準備を重ねてきました。当日、体育館にはたくさんの児童生徒が集まり、演奏を楽しんでいました。



【授業参観アンケートについて】

1月26日の授業参観、学級・学年懇談会には、多数の保護者の方にご来校いただいた上、アンケート記入にご協力いただき、ありがとうございました。

中国語や英語など、普段見れない専科の授業を見れて良かったという感想を多くいただきました。今回は懇談会がなく、授業参観に3時間をあてており、それについては、様々なご意見、ご指摘もありました。インフルエンザの流行る時期だとは認識しておりますが、本校は学期に1回の参観日を実施したいと考えております。

3学期の参観については、同時期になることをご理解いただきたいと思います。

来年度、内容等も調整していきます。今後も、ご支援・ご協力の程、よろしくお願ひします。